

市議会における政策提案とその対策等 〔一般質問〕					
担当課	スポーツ課	議員名	下平 美代 議員	提案月	H22. 12
<p>〔提案事項〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 射撃場閉鎖にむけて <p>伊万里市散弾銃射撃場における鉛問題については、地元からも閉鎖に向けた要望書が出されるなど、切実な問題となっており、一刻も早く地元の不安を払しょくするためにも射撃場の閉鎖ができないか。</p>					
<p>〔現況等〕</p> <p>射撃場については、昭和 59 年の開設以後、延べ約 40,000 人の利用者がある。平成 12 年に福岡県の射撃場で基準値以上の鉛が流出していたことを受け、水質検査を毎年行い、場外に基準値以上の鉛が流出していないことを確認している。一方、地元では、射撃場の閉鎖要望が出てきており、市として閉鎖する方針を立て射撃協会と協議を続けているが、鉛の除去が条件となっていることや有害鳥獣駆除の観点から、今すぐの閉鎖はできていない。</p>					
<p>〔政策提案を受けての対策〕</p> <p>伊万里市として閉鎖の方針は変わっていないことから、引き続き、射撃協会等と協議を続けていくこととし、水質検査、土壌調査については継続して実施していくこととする。</p>					
<p>〔対応状況・令和 5 年 9 月末日現在 検討中／協議中／対応中／完了〕</p> <p>平成 23 年 4 月に実施した射撃場内外 10 箇所（場内 2 箇所、場外 8 箇所）の土壌調査の結果、場内 2 箇所および場外 2 箇所から鉛の含有量及び溶出量ともに環境基準値を超える数値が検出されたため、同年 7 月 10 日から射撃場を休止するとともに、基準値以上の鉛の数値が出た民有地について、県の指導により一般市民が直接土壌に触れることがないように柵および看板を設置し、関係者以外立入禁止の措置を行った。</p> <p>県環境課から指摘されていたクレー、ワッズなど産業廃棄物の回収について、平成 23 年度緊急雇用創出基金事業を活用して平成 23 年 11 月から平成 24 年 3 月までの期間で実施した結果、クレー 186 トン、ワッズ 8.6 トンを回収した。これらの産業廃棄物については、平成 24 年度予算で運搬処分を行った。</p> <p>平成 25 年 8 月に有識者 4 名と市職員 12 名からなる伊万里市散弾銃射撃場環境対策検討委員会を発足させ、平成 29 年 1 月の第 5 回検討委員会で、今後の対応策についてアクションプランを策定し、地元関係者の立会いの下、表流水調査（雨期・乾期）を行うとともに、大型沈砂池の整備に係る用地取得に向け、地権者との交渉、一部用地の取得を進め、鉛汚染土壌の処理方法等の検討や、沈砂池整備にかかる経費の試算（概算）に取り組んだ。</p> <p>令和 2 年度及び令和 3 年度の検討委員会において、射撃場で特に高濃度鉛汚染が確認されているエリア（3,600 m²）の、第 2 溶出量基準を超える土壌（表層から 20 cm 程度）をまずは優先して撤去を進める方針を決定。令和 5 年 2 月の第 10 回検討委員会において、より効果的で経済的な視点から汚染土壌の剥ぎ取りや処分の工法について方針を決定し、令和 5 年度当初予算において工事請負費を予算化した。</p> <p>令和 5 年 6 月に入札を行うも応札者がおらず不調となったが、8 月の再入札において工事請負業者が決定したことから、9 月には大川内町区長会並びに吉田区に工事概要の説明を行うとともに、佐賀県に対し土地の形質変更届出を行うなど準備・仮設工事を進めている。</p>					